

円満想続の3K「感謝・絆・供養」

月刊ニュースレター

想 続

Vol.8 (2011年5月号)

発行：一般社団法人 日本想続協会

〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-4-1 岡野ビル 4F

TEL 03-3404-1225 FAX 020-4664-9664

E-mail [info@n-sk.org](mailto:info@n-sk.org) (担当：内田)

☆定期購読（無料）をご希望の方は上記へどうぞ！

## ユーモア感覚のすすめ

こんにちは。想続塾・塾長の内田麻由子です。娘が留学先のニュージーランドで、朝学校へと歩いていると、老婦人が犬を連れて散歩していました。それを見た通りがかりのおじさんが「今のおばあさんと犬、顔がそっくりだったな！」と娘に向かって朗らかに話しかけてきて、娘は思わず吹き出してしまいました。

私の祖母は、ちゃきちゃきの江戸っ子で面白い人でした。ある日、祖母が地元の亀戸を歩いていると、道端に百円玉が落ちていました。祖母の前を歩いていたお嬢さんもその百円玉に気づいたようです。祖母はすかさず「その百円、ワタシが先に見つけたんだからね！」と叫びました。そして「二人で山分けしよう」と提案し、お嬢さんには50円玉を渡して、自分は百円玉を拾いました。

親族の話が続いて恐縮ですが、私の母の場合は、本人は笑わせるつもりはないのだけれど、その言動に思わず家族で笑っちゃうことがよくあります。先日も、母と一緒に受講している上智大学の「グリーンケア講座」が終わり、二人でトイレに立ち寄ったときのこと。母が個室に入りほどなくして、突然けたたましいサイレンがあたりに鳴り響きました。母は水を流そうとして、誤って気分が悪くなったときに押す非常用ボタンを押してしまったのです。私は大慌てでサイレンを止め、警備員さんが駆けつけて来ないことを二人で祈りました。

「ユーモアとは“にもかかわらず”笑うことである」というドイツの有名な言葉を教えてくださったのは、上智大学名誉教授で「死生学」がご専門のアルフォンス・デーケン先生です。デーケン先生は、50年前にドイツから日本へ来たときには「フジヤマ」と「サヨナラ」のたった二つしか日本語を知りませんでした。しかも「フジヤマ」は間違いであるとなり「自分の日本語の知識の50%が誤りだったとは、大変がっかりした」と、ユーモアを交えてお話をくださいます。

ユーモアは、健康長寿の秘訣でもあります。一昨年101歳で亡くなった故・松原泰道禅師は、宗派を超えた「南無の会」の会長をなさっていました。港区・三田の龍源寺近くの小さなレストランで毎月開催される法話のあとには、お酒やお料理を各々注文しての懇親会がありました。松原先生曰く「“南無の会”のあとは“飲むの会”ですな」。ご講演もご著書も、笑いの中に真理を説くお話です。

デーケン先生や松原先生をはじめ、私が「この人、素敵だなあ」と憧れる方は、決まってユーモアがある方です。ユーモアは「愛と思いやりのあらわれ」なのですね。私たちも、心にゆとりを持って、いつも周りの人に、ユーモアで愛と思いやりを与えられるような人になりたいですね。

(税理士 内田麻由子)

～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～ ☆ ～

**相続&想続を楽しく学ぶ「想続塾」を、赤坂区民センターにて毎月開催しています。  
ご夫婦や親子で、お友達と、どうぞお気軽にご参加くださいね。**

**★5月26日(木) 14:00～16:00 第8回想続塾**

**「事例で学ぶ円満想続の心構え～遺言書があってももめる!？」行政書士 清水京子氏**

**★6月30日(木) 14:00～16:00 第9回想続塾**

**「本当の相続とは～父母恩重経を読む」仏教講師 岡本一志 氏**